

国際教養大学のギャップイヤー入試への取り組み

公立大学法人 国際教養大学
理事長・学長 鈴木 典比古

1. ギャップイヤー入試とは何か

- ・合格者には4月から8月末までの間、ギャップイヤー活動をするのが義務付けられる。
- ・入学は9月1日。
- ・推薦入試などと同様に、特別選抜試験の1種として前年11月に実施される。定員は10名。
- ・面接（ギャップイヤー活動計画書の発表を含む）と英語小論文で合否判定。
- ・合格した場合は必ず入学する専願方式になっており、ギャップイヤー活動を行う意欲・覚悟のある者が受験する。
- ・ギャップタームは造語。海外では1年未満でもギャップイヤーと呼んでいることから、無用な混乱を招く造語の使用は避けるべきである。

2. 出願から入学までの流れ

10月 出願

11月 入試、合格発表

12月 担当教員から入学までのスケジュール、宣誓書、保険加入について案内（郵送）

1月 より具体化、現実化した活動計画書を再提出。担当教員が助言・指導（メール）

2月 入学前教育研修参加（他の特別選抜合格者とともに2泊3日の合宿）時の夜間に、活動計画発表会(英語)を実施（顔あわせ。担当教員、ギャップイヤー入学者の先輩が助言）

4月 ギャップイヤー活動開始（浪人生をはじめ、高校卒業前から始めるケースもあり）

6月 中間報告書提出(英語)

9月 秋季入学式（秋季 AO 入試生、帰国生、外国人正規生、海外提携校等からの短期交換留学生とともに入学）

ギャップイヤー活動報告発表会、レポート提出(英語)

3. 人数の推移

年度	定員	出願	受験	合格	入学
2008	10	11	9	5	5
2009	10	32	32	12	12
2010	10	47	39	12	12
2011	10	77	64	14	13
2012	10	46	46	10	10
2013	10	66	66	15	15
2014	10	44	44		

4. ギャップイヤー入試の目的

- ・ 本学の理念は、グローバル社会で通用するタフな人材を育成・輩出することにある。ギャップイヤー入試は、
 - ・ 年齢や学事暦に囚われず、国内外の諸問題に対し高い関心を持ち、探求する意欲のある人材
 - ・ 失敗を糧にして困難に挑戦できる人材
 - ・ 人を動かせる力を持った人材を発掘する手段として期待される。
- ・ 早い時期に社会体験を積むことで、入学後の学習意欲や職業選択意欲が高まることが期待できる。

5. ギャップイヤーでの活動内容

種類

- ・ ボランティア
- ・ インターンシップ
- ・ 独自のテーマに基づく自由研究活動
- ・ 語学修得、ホームステイ
- ・ フィールド・トリップ
- ・ 部活指導など

最近の活動例

- ・ 日本の社会的弱者を救済するヒントを得るため、貧困層への炊き出しを行う NPO 法人で活動
- ・ 日本で必要のなくなった古着をパキスタンへ輸出する団体でボランティア
- ・ 韓国と秋田の交流を目指す、観光のボランティア団体でボランティア
- ・ 温泉旅館でのインターン。日本のおもてなしの研究
- ・ 沖縄の離島の民宿でのインターン。宿泊した若者の意識調査から日本の教育を考える
- ・ 防災活動への意識を高めるために必要なことを研究
- ・ 自転車で日本を一周し、社会問題となっている場所を自分の目で確かめる活動
- ・ アジア諸国を旅し、米が使われているメニューの研究

特徴

- ・ ボランティア活動が多く見受けられる。
- ・ 当初1、2ヶ月は活動資金捻出のためのアルバイトを行う学生が多い。
- ・ 平均して2件の活動を行っている。
- ・ 6・7割の学生が海外での活動を含んでいる。

6. メリット、デメリット

	大学側	学生側
メリット	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な学生の確保 2. 行動力・リーダーシップのある学生の獲得 3. 秋入学の推進力 4. ギャップイヤー経験者が他の学生に刺激を与える文化の形成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. やりたいことができる貴重な機会 2. 弱点克服などの入学前準備が可能 3. 実体験により視野が拡大。失敗、達成、人との出会いにより内面が成長 4. 学習目標、将来目標の形成に寄与
デメリット	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入試制度の増加による業務負担 2. 学力面のばらつきあり 3. 広い地理的範囲での単独行動であるため、危機管理が困難 4. 助言・指導の難しさ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的負担（本人、親） 2. 活動資金確保のためアルバイトをすれば、実質の活動期間が更に短縮 3. 親、高校の理解が得られにくい 4. 入学前に実施するため、学籍がなく、学割は不可。また、認知度が低く、インターン先が見つけにくい

ギャップイヤー入学生アンケート抜粋

1) いつからいつまで、ギャップイヤーを体験しましたか。

多くの学生は4月から8月末まで
留学生をはじめ、高校卒業前から始めるケースもあり

2) ギャップイヤーをどこで、どう体験しましたか。

別添資料『国際教養大学のギャップイヤー入試への取組み』5. ギャップイヤーでの活動内容御参照

3) ギャップイヤーを体験してみようと思った動機についてのべて下さい。

- ・やりたいことができる時間をまとめて確保することができる
- ・大学進学前に、大学で何を学ぶべきなのかの答えを探したかった
- ・自分探し、夢探し、やりがいや生きがいの探求、自分の能力や可能性を試す機会
- ・周りの知人友人とは違う経験ができると思った
- ・自分（地元）を知りたい
- ・オープンキャンパス時のギャップイヤーの体験談に魅力を感じて
- ・自分の夢の予行演習（適性があるのか確認）

4) ギャップイヤー体験から得たものは何でしたか。

（箇条書きで、いくつでも結構です）

- ・自分とは異なる考え方や価値観を受け止める柔軟性、寛容さ
- ・語学力含むコミュニケーション能力、行動力、行動範囲
- ・幅広い視野、考え方の多様性、工夫や発想力、独自性
- ・忍耐力
- ・学習意欲
- ・他への興味（他国、他文化、他人など）、逆に自への興味（自分は何者か、日本とはどういう国かなど）
- ・「夢に近づく」ための期間にするつもりが、逆に夢がリセットされた状態で入学することになった
- ・自分の可能性（積極性、行動力、企画力、努力すれば報われることなど）、自信、達成感
- ・無知の知
- ・社会の仕組み、成り立ちについて学ぶ機会
- ・周囲の温かさ、思いやりなど
- ・自己管理の重要性（時間、お金、安全面など）
- ・お金の大切さ、稼ぐことの大変さ
- ・親への感謝
- ・出会い、人脈
- ・一人の寂しさと仲間の重要性とありがたみ
- ・社会経験、社会的責任の重さ、責任感
- ・日常生活のありがたさ（海外で思い知る機会を得た）
- ・資格

5) ギャップイヤー体験中、直面した問題点は何でしたか。

(箇条書きで、いくつでも結構です)

- ・保護者からの理解を得る苦勞
- ・資金調達
- ・学年がずれるなど時間的遅延 (自分は気にしているわけではないが、一般論として)
- ・語学力含むコミュニケーション能力、またはそれを補う方法
- ・学生証がない、身分が不明瞭、それに伴う精神的不安
- ・体調管理、衛生管理 (特に海外にて)
- ・ホームシック、孤独、プレッシャーを感じたときの対処法
- ・情報収集
- ・ギャップイヤー制度の認知度の低さによるインターン先を探す苦勞
- ・計画通りに事が進まなかった
- ・自己管理 (時間、金銭、モチベーションの確保)

6) ギャップイヤー制度の良い点をあげてください。

(箇条書きで、いくつでも結構です)

- ・世間に流されずに自分の意見を持つことができる、自分自身を見つめることができる
- ・上記設問で挙げた問題を解決するもしくはしようとする能力
- ・大学での学びの方向性や意欲、その後の将来設計の考える機会、夢や目標
- ・他人とは違う経験ができること、感受性のある時期に経験ができること、また感受性を養える
- ・失敗や制約を気にせずに活動できること (→挑戦することが楽しく感じられる)
- ・「高校生」「大学生」という社会的枠組みに囚われないこと、逆に社会的地位の大切さ
- ・ある意味で孤独になれるので自分の内に目を向けられる
- ・仲間 (他のGY生) がいるという安心感
- ・計画や目標をたてることの大切さ
- ・大学に入学する前に自分に必要な準備を整えることができた
- ・人生観が広がる
- ・自分を成長させる、自主性・自発性の育成 (GYは自分で行動を起こさないといけないから)
- ・大学に通うことはあくまで一つの選択肢であって、その意味や意義を考えさせられた
- ・活動前にGY生で顔合わせをしたことは、他人の計画を知ることが刺激になり、また活動中の励みになった
- ・ギャップイヤー制度を利用してAIUに入る学生は、少なくとも近い将来までの道のりを考えた上で、ギャップイヤーの活動を決め、大学での活動を決め、その後の進路を決めというプロセスを経ます。大学生活で享受できるチャンスの一つ一つ無駄にせず、自分のために時間をきちんと使える人間になっていると思います

7) ギャップイヤー制度の問題点をあげてください。

(箇条書きで、いくつでも結構です)

- ・経済的負担
- ・時間的制約 (半年は短い)
- ・周囲の理解度やGYの認知度の低さから派生するマイナスイメージ (「遅れる」など)
- ・社会的支援体制がない
- ・自分自身がギャップイヤーを経験した時は人生経験を積むという説明を受けましたが、最近では東大が行っているから、国際的に行わないといけないから、など必要性をめぐる議論が迷走しているような気がします
- ・スケジュール管理ができていないと時間を無題に過ごすことになる
- ・計画や目標にばかり目が行って他の可能性に目がいかなくなる柔軟性の欠如
- ・活動中に当初の目標を忘れてしまう人が多いのではないかと
- ・休学して自主的に活動する場合と比べて、行動範囲や活動の内容が大学側に束縛されたものになるのでは
- ・通常の学生生活中にもできるような活動をギャップイヤーの活動とするのは問題だと思う

8) ギャップイヤー制度について何でも結構ですのでコメントしてください。

(箇条書きで、いくつでも結構です)

- ・ギャップイヤー制度用の奨学金がほしい
- ・就職活動を終えましたが、この制度が問題視されたことは一切なく、むしろ自分の個性として特徴づける絶好の経験として高く評価していただいたと思っている。日本の教育の既定路線からは外れるが、企業は全くそれらを気にしないことを、ギャップイヤーに挑戦したい学生の親や先生に伝えて頂ければうれしい。また、ギャップイヤーに挑戦する学生は、偏差値だけでは決して測れないユニークな考え方をもち、高い志や野心を持った学生を発掘する良い機会になると考える。
- ・自分の価値観を変える転機になった
- ・ギャップイヤーは普及して欲しいし、経験したい人が自由に選択できるような状態になれば良いと思う。制度を広めると同時に、ギャップイヤーのような主流ではないような価値観を許容できるような多様性を認める事ができる日本を作っていく事が必要だと思う
- ・GYは自分の人生を変えたと思う
- ・GYを体験してみようという活発な学生が増えることに期待、他大学でも行われることに期待
- ・大学3年や4年の就職を意識した時期ではなく、入学前の気持ちや思考が比較的自由な時期だったことが良かった
- ・日本の学生は個性を出さないようにしすぎではないは、GYはそれを打破する良い方法
- ・入学後もこのような時間がほしい
- ・担当教員以外にもGY経験者を”メンター”として、現GY生の学生をサポートするべきである
- ・GYの学生を”やっていたことを軸に評価する”風潮を大学内外で感じるので、”やりたいことをやる期間”という本来の姿を、国際教養大学を先頭に広めていく必要がある
- ・ギャップイヤー入試制度を廃止し、全学生にギャップイヤーをとる権利を与えると当大学にさらなる特色を持たせることができると考えられる
- ・入学時期を秋にずらすことが目的ではないはずなので、1年間のギャップイヤー制度の導入も検討すべき
- ・ギャップイヤーは義務ではなく、やりたいと強く思った人が行うものだと思う